

## 令和4年度(2022年度) 熊本県教育功労(優秀教職員)表彰受賞者功績概要

### 【教職員】マスター部門(49歳以上)

No.	学校名 氏名	功績の概要
1	長洲町立六栄小学校 水本 和美	<p>●英語教育等学習全般に優れた指導力</p> <p>長洲町内小学校4校が英語教育の教育課程特例校となった平成29年度から3年間、自身の英語力も生かし町全体へ実践の模範を示すとともに英語教育推進の核となり、町の英検受検者数及び合格者数増の要となった。また、令和3年度には、小学校3年生が使用する副読本「わたしたちの長洲町」作成の中心として活動し、今後のデジタル教材としての活用方法も見据え作成に当たった。さらに、国語教育の実践をまとめた教育論文で、管内の令和3年度会長賞(最高位)を受賞している。</p>
2	南阿蘇村立南阿蘇西小学校 江藤 真理	<p>●特別支援教育における優れた指導力</p> <p>特別支援教育に長年携わり、勤務した学校・地域で特別支援教育の推進や後進の人材育成にも優れた指導力を発揮している。特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターとして、教育的愛情と高い使命感を持ち、児童・保護者に寄り添った丁寧な指導・支援を行ってきた。児童一人一人の特性に応じた合理的配慮を行い、自立に向けた支援と個に応じた指導の充実に努めている。児童の特性に応じた指導・支援、職員への助言等、職務に誠実に向き合う姿勢は、特別支援学級担任だけでなく、通常学級担任からも絶大な信頼を得ており、職員の資質・能力の向上に大きく寄与している。</p>
3	御船町立高木小学校 甲斐 秀子	<p>●英語科を中心とした優れた指導力</p> <p>研究主任として、文部科学省指定「教育課程特例校(英語科)」である本校の英語科研究の中心的な役割を担っている。優れたリーダーシップを発揮して実践的な研究を推進するだけでなく、豊富な経験を生かして率先して研究授業に取り組む姿は、若手の育成にもつながっている。また、これまで文部科学省の研修等に参加し、その内容を確実に復講することで、管内の外国語教育の充実に貢献した。学級担任として、学級経営でも優れた指導力を発揮し、児童と深い信頼関係を築いている。児童一人一人の確実な学力向上、生きる力の育成が図られており、保護者からの信頼も厚い。</p>
4	水俣市立水俣第一小学校 米良 美穂	<p>●ミドルリーダーとしての優れた指導力</p> <p>大規模校から複式学級を有する小規模校まで経験し、指導力向上に努めてきた。平成27年度全国へき地教育研究大会熊本大会では算数科の授業を公開した。令和元年度文部科学省主催の体育・保健体育指導力向上研修を受講し、県内の小学校等の職員に対する研修会の講師を任されるなど、様々な教科において実践を積み重ねてきている。また、組織の一員として広い視野をもちながら学校全体の課題解決に向け、職員にアドバイスをを行っている。若手教師に対して自己の経験を踏まえ、適切に助言等を行うなど、人材育成の面においても学校の中核として力を発揮している。</p>
5	球磨村立一勝地小学校 酒井 克己	<p>●教育の情報化に優れた指導力</p> <p>平成27年度から令和元年度まで県教育委員会指定「ICTを活用した『未来の学校』創造プロジェクト」研究指定校事業で、研究主任や教務主任として研究推進に携わった。球磨村全校の全体研究主任としてリーダーシップを発揮し、平成30年度「教育の情報化」推進フォーラムでは、パネリストとして発表するなど、球磨管内の教育の情報化に中心的な役割を果たしている。また、令和2年7月豪雨後、多くの児童が仮設住宅で生活する中、学力向上に向けた取組を牽引するとともに、教務主任として教育課程の工夫や関係機関との連絡調整に尽力するなど、復旧復興に大きく貢献している。</p>
6	宇土市立鶴城中学校 平野 哲也	<p>●学校事務職員の意識を変えるリーダーシップ</p> <p>管理職や他の教職員との適切な業務の連携・分担の下、専門性を生かして主体的・積極的に校務運営に参画した。また、平成28年度から熊本県学校事務研究協議会の研究部長として、目指すべき学校事務職員像等が描かれた「熊本版グランドデザイン」の作成の中心となった。さらに、「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創」を目標に掲げ、学校事務職員のキャリア別機能・学校事務組織としての地区研修会の活性化・教育委員会との連携をより強化してきた。このことは、本年度スタートした宇土市学校事務センターの運営の指針となっており、円滑で効率的な業務につながるようになった。</p>

No.	学校名 氏名	功績の概要
7	合志市立合志楓の森中学校 光永 万美	<p>●壁新聞作成を通じた国語教育の優れた指導力</p> <p>長年、国語指導及び研究に真摯に取り組み、国語教育の一環として壁新聞制作の指導に取り組んでいる。前任校では、熊日新聞コンクール中学新聞の部(壁新聞の部)において、4年連続で熊日賞(第1席)を受賞し、本校でも5年連続となる熊日賞に加え、最優秀賞、優秀賞と第1～3席を受賞する快挙を達成した。この取組及び作品は、ハンセン病問題に係る人権教育・啓発の上でも意義が大きく、制作に取り組んだ生徒たちの自己有用感はもとより、生徒たちの「学校に対する誇り」を高めることにつながっている。</p>
8	氷川町及び八代市中学校 校組合立氷川中学校 高橋 佐和子	<p>●英語科教育を中心とした優れた指導力</p> <p>生徒の実態に応じた的確な指導と、家庭学習の習慣化の徹底により、基礎学力向上に寄与し、標準学力テストや県学力テストにおいても、英語の学力を大きく向上させた。英語検定受験に対してもきめ細やかな指導を行い、受験者数は平成30年度48人から徐々に増え始め、令和3年度97人となり、合格率も平成30年度70.8%から令和3年度は82.4%に上昇している。また、教科指導を通して、全生徒への生徒指導にも多大な影響を与え、すべての教育活動でリーダーシップを発揮し、他の教職員の指導力向上にも尽力している。</p>
9	熊本県立熊本高等学校 東 哲司	<p>●スーパーティーチャー(数学)として優れた指導力</p> <p>多くの高校から指導力向上研修会の講師派遣依頼を受け、授業実践や教材研究の手法、考査問題の作問などについて質の高い助言を行い、特に難関大を目指す高校生たちの夢実現に大きく貢献してきた。日頃の授業実践においても、教科指導法の研究に取り組み、各単元の導入を工夫し、苦手な生徒でもスムーズな理解が可能な指導を実践している。また、数学へ高い関心を寄せる生徒に対しては、単元間の系統性を分かりやすく解説し教科書全体を俯瞰する指導は生徒からも高い評価を得ている。</p>
10	熊本県立南稜高等学校 市田 信悟	<p>●地域農業を支える人材の育成</p> <p>総合農業科で草花を担当し、幼小中の行事や地域のイベント等にシクラメンの花を提供するなど地域の緑化活動に貢献している。シクラメン栽培においては、県立大学との共同研究によるマイクロバブル水を使用した栽培を行い、先進的で地域に還元できる農業実習に取り組んでいる。また、生徒への指導力や技術力には卓越したものがあり、他の教諭の模範となっている。農場長として各科の取組や方向性を常に考えており、県下の農業クラブ活動で常に好成績を収める生徒の育成の中心となって活動している。結果として、生徒は農大等への進学や就農に意欲的に取り組んでいる。</p>
11	熊本県立菊池支援学校 宮崎 亜紀	<p>●スーパーティーチャー(特別支援教育)としての優れた指導力</p> <p>特別支援学校においてその研究や実践の成果を学会や様々な研究会等で報告している。前任校での「自立活動」に係る研究成果は他県教育委員会の参考資料にも取り上げられた。令和元年度、スーパーティーチャー任命後は、特別支援学校のみならず小中高等学校へも出向き、講話や授業を参観し指導助言を行っている。特に「自立活動」の指導に関する研修を数多く担当し、本県特別支援教育の専門性向上に寄与している。また、特別支援教育課作成の『特別支援教育充実ガイドブック』の執筆者や文部科学省著作教科書の編集協力者となるなど、その専門性を高く評価されている。</p>
12	熊本県立芦北支援学校 深浦 勝子	<p>●スーパーコーディネーターとしての優れた取組</p> <p>長年、特別支援教育スーパーコーディネーターとして、児童生徒、教職員の相談に対して具体的に課題を整理し、一人一人の実態に応じた指導助言を行ってきた。数多くの教育相談や巡回相談を通して、授業内容や環境づくり、指導支援の方法などについて幅広い知見から助言し、児童生徒の成長につなげている。保護者の思いや願いを真摯に受け止め、学校や教職員間との架け橋になるなど、保護者、学校等から高い信頼を得ている。また、地域や学校からの求めに応じて丁寧な講話や研修を実施するなど、特別支援教育の理解・啓発に心血を注いでいる。</p>

【教職員】フレッシュ・キャリア部門(48歳以下)

No.	学校名 氏名	功績の概要
1	大津町立大津小学校 緒方 奈々	●スーパーティーチャー(算数・生活数理)としての優れた指導力 文部科学省研究開発学校として新教科「生活数理」の開発に中心となって取り組み、授業公開を数多く行うとともに、指定のまとめとして文部科学省担当官の協力のもと出版された図書でも、実践事例を執筆した。本校では高学年の学年主任として、学級経営、学年経営に長けており、児童、保護者からの信頼も厚い。また、児童会担当として各委員長の公約「夢サミット」の実践を促し、令和2年度熊本県善行児童表彰及び菊池郡市善行児童表彰を受賞した。人権意識が高く誠実な指導は大変優れており、本年度スーパーティーチャーに任命され、若手の人材育成にも取り組んでいる。
2	西原村立山西小学校 竹田 直樹	●体育科教育を中心に優れた指導力 体育科教育について熱心に研究に取り組み、平成27年に上益城郡教育研究会、平成28年に県小学校体育研究会発表大会で公開授業、実践発表を行い、令和2年からは、本校のみならず阿蘇郡市の体育科教育の充実に寄与している。今年度、体育・保健体育指導力向上研修(西部ブロック)に熊本県代表として参加し、そこでの学びを県小学校体育指導力研修の講師として、多くの参加者に提供し、指導力向上に貢献している。また、西原村「熊本の学び」研究推進委員会授業改善部会の研究主任として、村全体の学力向上を目指し研究推進に取り組んでいる。
3	甲佐町立龍野小学校 松岡 さゆり	●国語科・外国語活動に優れた指導力 国語科を中心に教科指導に取り組み、児童の学習意欲を高め、主体的に考え学び合う授業づくりの推進に努めている。児童一人一人を大切にしたいわかる授業を心がけることで、意欲的で落ち着いた学級経営につながり、児童や保護者からの信頼も厚い。また、甲佐チャンツ(小学校で必要な単語を網羅したチャンツDVD)の作成など、外国語活動の研究主任として、甲佐町の外国語活動の基盤を作ってきた。甲佐町の学力向上部会のチーフとして町全体の学力向上を推進しており、日々の地道な授業実践とともに、若手への積極的な授業公開を行うなど、中心的な役割を果たしている。
4	宇土市立網田中学校 高濱 壽夫	●生徒指導と部活動(相撲)指導に優れた指導力 管内の大規模校である2つの中学校において、各々4年、延べ8年間生徒指導主事を務め、生徒、保護者に寄り添い、深い信頼関係を構築し、心を揺さぶる指導を通じ、両校のみならず、管内全体の生徒指導に寄与した。また、本校の中核として、多様な視点で校務にあたり、積極的に学校運営に参画している。部活動(相撲)指導においては、平成26年度以降熊本県中学校体育連盟、令和元年・2年度は九州中学校体育連盟の専門部長として、競技の普及、強化にあたり多くの実績がある。基礎基本を大切にしたい競技指導を通して、人間性の伸長を重視し、長期的展望にたった指導は高い評価を得ている。
5	玉名市立玉南中学校 開 理祐	●数学科を中心に学力向上や生徒指導に優れた指導力 授業や学級経営、生徒指導において高い指導力があり、学校教育目標の具現化を長期的視野に立って計画的に進めており、学校の中心として活躍している。数学の授業では「熊本の学び」に基づき、生徒が主体となる授業展開で常に生徒からの発信が行われている。主体的・対話的で深い学びとなるような授業実践の実現をめざし、ペア学習を軸にして課題解決の手順やその過程を伝え合う学習を通して学力の向上に努めている。全国や県の学力・学習状況調査でも数学科の正答率が県平均を上回る成果である。困難な事業・課題にも積極的に関わり、学校全体の活性化を図ってきた。
6	山都町立矢部中学校 寺田 亜紀	●スーパーティーチャー(国語)としての優れた指導力 学力調査の結果を分析し、生徒の理解度や理解力に合わせた指導を行っている。同じ学習内容でも授業展開を毎年変化させ生徒からは、楽しく学んで、しかも自然に身に付く授業だと評価されている。担当した学級は、前年度の成績を下回ったことがなく、時には、熊本県学力調査の県平均を10ポイント以上も上回ることがある。平成30年度には、熊本県中学校国語科の授業マイスターに認定され、令和4年度からスーパーティーチャーとして生徒の興味や意欲が湧くしかけや、学習のねらいに迫る学習展開等の豊富なアイデアで、どの国語教員でも取り組める楽しい授業を提案してきた。
7	八代市立第一中学校 鋤先 良浩	●研究主任としての優れた指導力 令和2年度から2年間、県教育委員会指定「熊本の学び」研究指定校の研究主任として理論構築及び研究発表会での授業者として実践公開等を行い優れたリーダーシップを発揮した。学校の課題であった学力向上において、令和3年度熊本県学力・学習状況調査において、全国平均を100とした時に、令和元年度比で、国語は5.4ポイントの上昇、数学は6.9ポイントの上昇、英語は10.7ポイント上昇する成果をあげた。また、社会科教育においても、八代地域の歴史分野の部長を務めるなど、地域における社会科教育の充実に関して主導的な役割を果たしている。

No.	学校名 氏名	功績の概要
8	芦北町立湯浦中学校 中田 道男	<p>●特別活動推進に優れた指導力</p> <p>県中学校特別活動研究会の芦北地区の幹事を務め、管内の学級活動や生徒会活動などの推進リーダーである。郡市教科等研究会では自ら進んで「話し合い活動」の理論研修で講師を務めるなど、優れた指導力を発揮している。平成28年度熊本県特別活動研究大会と平成29年度九州特別活動研究大会では、学級活動についての研究発表を行った。また、平成30年度芦北教育事務所主催のオープン授業研修会で「話し合い活動」の公開授業を行った。校内では学級担任に対し、「話し合い活動」や「人間関係づくり」講座を自主的に行うなど、若手教師の指導力向上にも尽力している。</p>
9	錦町立錦中学校 黒木 奈穂子	<p>●養護教諭として優れた指導力</p> <p>生徒の健康で安全な生活を保障するとともに、特別な支援を要する生徒や不登校及び不登校傾向の生徒への対応等、保護者や教師、関係機関と連携を図りながら対応している。生徒、保護者からの信頼も厚く、他の教師の模範となっている。コロナ禍への対応では、生徒の体調を適切に観察し、施設の消毒、教室の換気、手指消毒、加湿器の稼働など、校内の感染防止対策に積極的に取り組んでいる。人吉球磨学校保健会養護教諭部長をはじめ、熊本県養護教諭部会人吉球磨理事などの要職を務めるなど、管内の養護教諭のリーダー的存在である。</p>
10	天草市立本渡東中学校 津田 恭子	<p>●英語教育に優れた指導力</p> <p>英語教育への熱意と指導力が高く、これまで英語担当者指導法研修会や天草管内の英語研修会等で実践内容等を紹介し、英語担当者の指導改善に貢献した。日常の授業ではコミュニケーション能力の育成を指導の核に置き、五つの領域目標の実現を目指している。また、前任校では、生徒のスピーキング能力を測るための評価法を工夫し、市教育委員会と連携して市内ALT全員を活用した「スピーキングテスト」を学期に1回実施しグローバル人材の育成に視点を入れた取組を行った。現在は、英検取得率を高める取組を行うことで、「英語が好き・英語がわかる」生徒の育成を図っている。</p>
11	熊本県立熊本農業高等学校 千原 康弘	<p>●養豚経営に優れた指導力</p> <p>平成28年から畜産分野において、生徒が主体的に取り組む課題解決型活動の指導と支援に取り組んできた。特に養豚経営に関する研究分野では、SDGsの視点から環境や食品ロス削減など科学的根拠に基づいた生徒と地元農家や企業との関わりを重視した実践と研究が高く評価され、日本学校農業クラブ連盟主催の全国大会プロジェクト発表において2大会連続最優秀賞をはじめ、数々の受賞へと導いた。これらにより、畜産分野において地域社会で活躍する多くの卒業生を輩出した。</p>
12	熊本県立宇土中学校・宇土高等学校 梶尾 滝宏	<p>●スーパーティーチャー(物理)としての優れた指導力</p> <p>探究の「問い」を創る授業、教科等横断型授業、産学官と連携した教育の実践とともに、スーパーサイエンスハイスクール校としての先進的取組の研究開発をけん引している。オンラインホワイトボードを活用した授業、学習保障のためのハイフレックス型(対面、オンラインを選択可)授業、1人1台端末を活用した学習コンテンツづくりを主導している。これらの実践を校外で指導助言を行い、県全体への貢献度が高い。科学部顧問として生徒の課題研究を支援し、全国総合文化祭に9年連続出場、日本一を3回受賞している。「副実像」の研究は物理の教科書に掲載された。</p>
13	熊本県立鹿本商工高等学校 中村 俊一	<p>●学校魅力化と地域貢献に向けた取組</p> <p>令和3年度の「県立学校魅力化支援事業」では、研究主任として中学生を対象とした「ものづくり教室」や地域のイベントである「来民門前市」への参画等で学校魅力向上・発信に尽力した。令和4年度は、「熊本スーパーハイスクール事業」の研究主任として機械科など4科が連携した「獣害駆除システムで地域貢献」に取り組み、「県立高校OneTeamプロジェクト事業」の研究主任も任され、精力的に役割を果たしている。令和3年度末に導入されたデジタル化対応産業教育設備装置の選定、教職員の研修に活躍し、「最新設備披露会」を企画開催するなど本校の工業教育の魅力を推し進めた。</p>
14	熊本県立球磨工業高等学校 中島 佳香	<p>●部活動(カヌー)指導において優れた指導力</p> <p>カヌー部指導では、「心はひとつ」をモットーにチーム一丸となって全国制覇を目指している。常に生徒と同じ目線で選手に寄り添い、悩みや課題を共有しながら生徒の良き伴走者として指導している。平成27年度から令和4年度まで連続で各種目でインターハイ出場を果たし、平成27年度、平成28年度は、カナディアン・フォアの種目で優勝を収めた。令和2年7月豪雨では、カヌー艇庫も甚大な被害を受け多くの艇を失ったが、カヌー艇庫近隣住宅の復興作業や青井阿蘇神社、球磨川の清掃活動を部員と一緒に取り組み、災害復興の一助として地域にも貢献した。</p>

【教職員組織】

No.	教職員組織名	功績の概要
1	山鹿市立鹿北小学校及び山鹿市立鹿北中学校教職員一同 (山鹿市立鹿北小学校、山鹿市立鹿北中学校)	●小中連携及び5者連携による地域に根差した児童生徒の育成 平成25年度から併設する小学校と中学校の連携を深め、子ども・職員・保護者・地域・行政の五者で連携をとりながら将来において地域を担う人材の育成に努めてきた。小中学校で歩調を合わせたカリキュラム・マネジメントとコミュニティ・スクールの推進により、小中合同運動会の実施や特別活動の推進、地域の「かほくまつり」への参画、地域高齢者が集うサロン会への参加など、社会に開かれた教育課程を実現しながら学校教育目標達成に向けて取り組んでいる。また、令和3年度より校区外からの通学を認める小規模特認校として地域の特性を生かした独自の教育活動を展開し、多くの児童生徒が制度を利用して通学している。
2	高森町立高森東学園義務教育学校教職員一同	●小中一貫教育の深化による県内初の義務教育学校としての成果 高森町新教育プランに基づき、コミュニティ・スクール(CS)を基盤とした小中一貫教育、ふるさと教育の具現化に努め、平成29年度に県下初の義務教育学校として誕生した。小学校、中学校の垣根のない学校組織として、1年生から中学3年生(9年生)までの学齢、発達段階に応じた教育課程の編成と運用、実践を重ねている。また、CSを基盤としたふるさと教育において、「高森ふるさと学」をコア・カリキュラムと位置付け、地域の人材をゲストティーチャーとして招くなど地域の教育力を活用した体験学習の実践に取り組み、地域学校協働本部や各地域コミュニティと協力して地域に開かれた学校づくりを行っている。
3	氷川町立竜北東小学校教職員一同	●地域とともにある学校づくりの推進 平成18年に学校運営協議会を設置し、「地域とともにある学校づくり」に取り組んできた。氷川町教育委員会の地域学習カリキュラム「ふるさと『氷川学』」を活用した学習に取り組むために、研修等を通じて教職員自身も学びを深め、地域を愛する心を育てている。地域の人的資源・物的資源を活用し、「地域貢献」「地域創生」の視点を大切にされた教育活動を展開している。コミュニティ・スクールと地域学校協働本部の一体的・効果的な連携・協働活動推進の手本となっており、令和2年度には文部科学大臣表彰(「地域学校協働活動」推進)を受賞した。
4	芦北町立佐敷小学校教職員一同	●カリキュラム・マネジメントの中心に据えた学校給食・食育の推進 令和2・3年度熊本県教育委員会指定学校給食・食育研究指定校として、カリキュラム・マネジメントの中心に望ましい「食習慣」の基盤づくりを設定し、主体的に考動(考え行動)する児童の育成を目指した。育てたい3つの力(探究力・共感力・協働力)と、食の重要性などの6つの「食育の視点」を関連づけ実践を重ねた。教科等を「食育」との関連度から3分類に分けて教科横断的に関連づけ、計画的・系統的に授業を行った。保護者と協力した日々の健康づくりのための「元気アップカード」の作成、地域と連携した野菜等の栽培活動の指導や支援、地元の高校と連携したお菓子作りなどの取組を行い、食や郷土への関心、学ぶ意欲や自尊感情の高まりなど児童の変容がみられた。
5	あさぎり町学校ICT教育推進部会 (あさぎり町立岡原小学校他5校、あさぎり町教育委員会)	●全学校共通テーマでのネットワークを活用した授業及び家庭学習の実践 令和5年度までのロードマップを作成し、町内全小・中学校6校での共通テーマのもと、タブレット端末等の効果的な活用について研究・実践に取り組んでいる。特に、令和3年度はコロナ禍という喫緊の課題への対応に向け、Web会議システムを活用したオンライン授業をはじめ、外部人材及び専門家等との協働学習、タブレット端末を活用した家庭学習に重点的に取り組んだ。また、本部会が中心となり、町内全校ICT研修を実施するなど、教職員のICTスキル向上にも尽力し、その成果として、令和3年度中に町内全学校が学校情報化認定(優良校)を取得している。
6	天草市立本渡中学校教職員一同	●「熊本の学び推進プラン」をもとにした自ら『学び続ける力』の育成 令和2・3年度「熊本の学び」研究指定校として、3つの柱(①生徒が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業づくりの推進 ②授業と家庭学習の関連や家庭との連携を図りながら、より効果的な家庭学習の取組方法の提案 ③「生徒と生徒」「生徒と先生」「学校と家庭・地域」それぞれにおいてつながりある教育活動の推進)で学力向上に向けた取組を行った。これらの取組を通して、令和3年度全国学力学習状況調査及び令和3年度熊本県学力学習状況調査で全学年、全教科において全国平均、県平均上回る事ができた。